

# 大学生が防災ボランティア活動を行うための環境整備について

「広く防災に資するボランティア活動の促進に関する検討会資料」

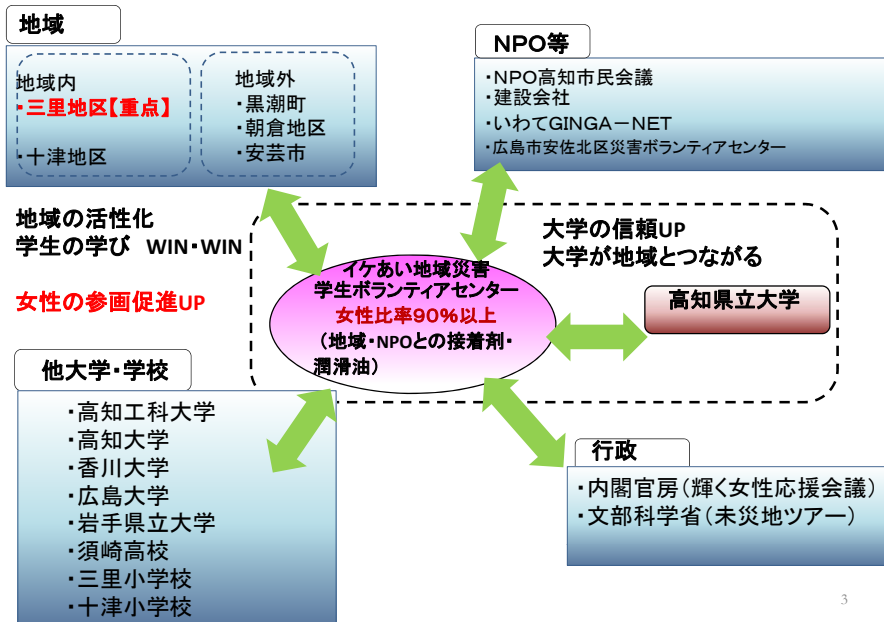
高知県立大学地域連携課長  
イケあい地域災害学生ボランティアセンター顧問  
山崎 水紀夫

## 高知県立大学防災サークルのこれまでの活動 ～周回遅れからトップランナーへ～

1. 地域活動  
三里フェアへの参画、地区運動会への参画、避難路整備、防災授業講師
2. 被災地支援  
・岩手県沿岸部での復興支援活動(仮設住宅・1次産業支援)  
・広島土砂災害(ボランティアバス運行、義援金、タオル支援)
3. 女性の視点  
・女性や子どもの視点でつくる避難所研修  
・輝く女性応援会議in高知に登壇
4. その他  
・黒潮町福祉祭りへの参加  
・未災地ツアーの実施  
・イラストを使った避難所配置ゲームの開発  
・各種研修での講師



## コラぼうさい(コラボレーション+防災)



## 3年連続で全国表彰!

## イケあい地域災害学生ボランティアセンター



- 25年度: ぼうさい大賞(ぼうさい甲子園)
- 26年度: 消防庁長官賞(防災まちづくり大賞)
- 27年度: 奨励賞(ぼうさい甲子園)

## 全国屈指の防災サークルへ

1. 輝く女性応援会議in高知での登壇(登壇者:高知県知事・森まさこ少子化担当大臣)(H26.7.24)
2. 松本洋平防災担当大臣政務官との懇談(H27.7.9)
3. 小泉進次郎復興担当大臣政務官への活動報告(H27.8.28)
4. 河野太郎防災担当大臣との懇談(H27.12.7)
5. 消防団を中核とした地域防災力充実強化東日本大会での発表(H27.1.29)



## 東日本大震災での支援(2011年)

1. 2011年に現地で支援に当たった学生ゼロ
2. 思いはあるが活動を後押しする教職員がいない
3. 役者はそろっていたが・・・(赴任1年目で余裕なし)
  - ①学長:世界災害看護学会理事長(2011年4月就任)
  - ②学生支援:被災地支援経験10回のスーパーバイザー+県ボランティア・NPOセンター運営委員長(2011年4月赴任)
4. 文科省:「震災で大学としてどう支援したかが大学評価に直結する」
5. 学長のリーダーシップと支援担当が業務にも慣れ、トップギアで学生の思いを後押しする支援を開始。

6

## 周回遅れでのスタート

2011年

11月:防災サークル「イケあい」結成

2012年

3月:東日本大震災に学ぶコミュニティ支援力研修に10人が参加。(旅費:大学が助成)

6月:岩手県立大学山本准教授、GINGA-NET代表を招いての講演会実施(大学主催)

9月:夏銀河に48人が参加。高知から岩手までバスを運行し仮設住宅での復興支援に当たる。(大学後援会がバス代を負担)

7

## 夏銀河



8

## 夏銀河



9

## 夏銀河



10

### 未災地ツアーの実施

1. 未災地ツアーとは  
未来の被災地の略称。現在の高知の状況や課題を知り、被災時の支援につなげる(知人の存在や一度訪れた場所は支援の気持ちが強くなる)。また高知で学んだことを地域に持ち帰り活動につなげる。
2. 実施日:平成25年5月3日～5日  
平成26年3月8日～9日
3. 場 所:高知県立大学池キャンパス周辺地域
4. 参加学生:30名(内県外学生13名)
5. 内容:講演(南海地震対策課他)、未災地ツアー(地域住民とのフィールドワーク)、地域住民との交流、ワークショップ

ぼうさい大賞受賞(結成2年目の快挙、ピキナーズブラック?)  
27年度からは大学の地域学実習で採用

11

### 未災地ツアー成功のキーワード①

1. 学生の特性を生かした運営  
発案者:発想力・言葉の力はあるが安定性に難。  
実行者:リーダーシップと集中力があり、短期間の準備で実施。  
※それぞれの個性・特性を生かした関わり。
2. 地域団体の力  
大学の位置する三里地域は、海岸部に位置し津波で甚大な被害が想定されている。三里地区防災会は高知県下でも防災で有数の取組みをしている地域。未災地ツアー当日は消防団を中心に15名の方が地域の危険箇所等を案内していただいた。

12

## 未災地ツアー: 学生の力



13

## 未災地ツアー: 地域力



14

## 未災地ツアー成功のキーワード②

3. 地域資源(魅力)を取り入れる
  - ・桂浜まで車で10分。(早朝桂浜ツアーを実施)
  - ・種崎海岸の海岸美を堪能しながらの夕食
  - ・県営渡船に乗船してのフィールドワーク
  - ・津波避難タワーでは梯子を使って屋上へ
4. 学生が頼れる相談役の存在
  - ・場当たりティに富んでいる(バイタリティの造語)
  - ・イベント経験豊富
  - ・ポジティブ思考

15

## 未災地ツアー: 地域資源



16

# 未災地ツアー：地域資源



17

## 広島土砂災害支援の特徴 (大学がバスを運行：学生が主体的に運用)

1. 先遣派遣： 9月21日(日)～23日(火)
  - ・被災地の現状把握→被災地の視察、VCの業務
  - ・現地VCの活動の中で事前協議



ボランティアバスでの支援の内容決定

2. ボランティアバス： 9月29日(日)～9月30日(月)  
安佐北区災害ボランティアセンター  
参加学生内訳：学生22名  
先遣派遣が自ら現地ニーズを発掘

18

## 清掃作業



◀生活道の清掃作業



洗い流し作業▶

## 個別訪問：寄り添い支援



5

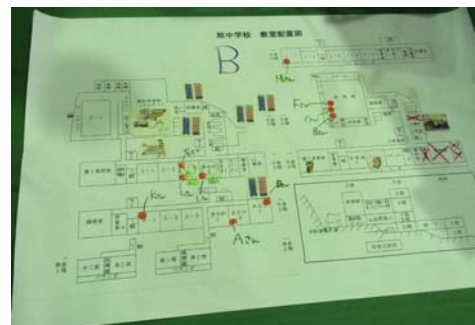
# 被災地での黙とう



安佐南区八木地区



# イラストを使った避難所配置研修



地域の学校の見取り図使用でイメージしやすく、子どもが大人に教室の配置を説明できると好評！

# 久礼小学校でのイケあいオリジナル避難所配置ゲームの様子



- ・地域の小学生・高齢者・大学生が避難所運営について知恵を出し合う。
- ・高知県の防災士研修などで取り入れられる



子どもが参加できる避難所研修  
わかりやすく・親しみやすく！

## 障害者(車イス・全盲)・高齢者 疑似体験での避難訓練



- ・白内障ゴーグル
- ・重り、耳栓
- ・装具で関節を固定
- ※インストラクター必要



家屋倒壊写真を掲げてイメージを持たせる。  
車イス・全盲者は家屋・電柱倒壊で通行止めを宣告。  
広い道路に出るため大きく迂回。



地震の時は道路は障害物だらけになる！  
悪路で車イスでの避難の困難さを体験！<sup>26</sup>

## 災害ボランティアセンター模擬訓練



- ・受付
- ・活動のマッチング
- ・オリエンテーション
- ・資機材の受取



- ・避難所支援: 宅老所での手浴と交流
- ・今後は個人ニーズを拾い活動につなげる予定！



復旧支援: 公園の草刈



復興支援: 農業支援<sup>27</sup>



復旧: 避難路の整備



活動報告

「県民大学」学生プロジェクト

# 立志社中

立志社中とは

高知県は多くの有為な人材を生み、若者たちは世界へと飛び立っていきました。日本で、そして世界で通用する人材を本学で育てたいという想いを込めて、坂本龍馬の「亀山社中」（後の海援隊）と、板垣退助らの「立志社」をあわせて、本事業を「立志社中」としました。「社中」には、「仲間」「結社」という意味があります。つまり、「立志社中」とは、「将来の目的を定めて、これを成し遂げようとする学生グループ」という意味です。

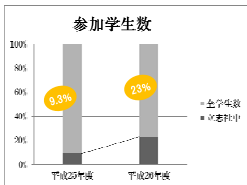
「地域に学び、地域で育つ」学生たちの教育プログラム

高知県立大学は「県民大学」としての歩みを続けています。その中で、平成25年度から地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせました。立志社中には3つの目標があります。

- 1 地域の課題に高い関心を持った学生が、地域の方々と協働して取り組む
- 2 学生が地域の方々と一緒に活動することを通じて、学内だけでは学べないことを学ぶ
- 3 大学と地域が協働して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる

学生の積極的な地域活動への参画

立志社中は平成25年度に6チーム（プロジェクト）参加学生102名でスタートしました。  
平成26年度には8チーム参加学生数266名に増加し、2割を超える学生たちが高知県内を中心に活発に活動しています。



【活動事例】

- 中土佐町（健康栄養学部）  
地元食材の使用と栄養バランスを考慮したレシピの開発と地元内外から参加者を募り、大量調理による食事の提供
- 高知市（看護学部）  
熱中症予防、AED使用方法、心肺蘇生法、止血法等の応急手当の普及と啓発活動
- 黒潮町（文化学部、看護学部、社会福祉学部、健康栄養学部）  
災害時にボランティアセンターを立ち上げるための基盤づくりとして、地域住民との交流を通じた防災啓発活動
- 三原村（文化学部）  
本学学生と中学生による民俗・言語の合同調査と次世代への文化の継承

## 「県民大学」学生プロジェクト「立志社中」

**1 健履隊** 看護学部  
よさこいやスポーツイベントでの事故防止や健康教育の啓発運動を行う（高知市他）

**2 イケあい地域災害学生ボランティアセンター** 看護学部・社会福祉学部  
災害時のボランティアセンター立ち上げの基盤を作る（高知市三原・黒潮町）

**3 COME★RISH** 健康栄養学部  
米作りやレシピの開発を通じて中土佐町の活性化に貢献する（中土佐町）

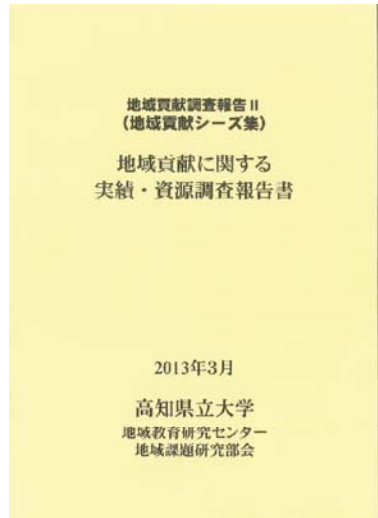
**4 「活躍」創生実行委員会** 文化学部  
香美市の中山間地域で地域課題を創出し、その解決に取り組む（香美市平山地区）

**5 from Zero** 文化学部  
三原村で民具の方言呼称の実地調査や保存に向けた活動を行う（三原村）

**6 チームシネマフィロソフィア3.1.1** 文化学部  
東日本大震災のドキュメンタリー映画を上映する（高知市）

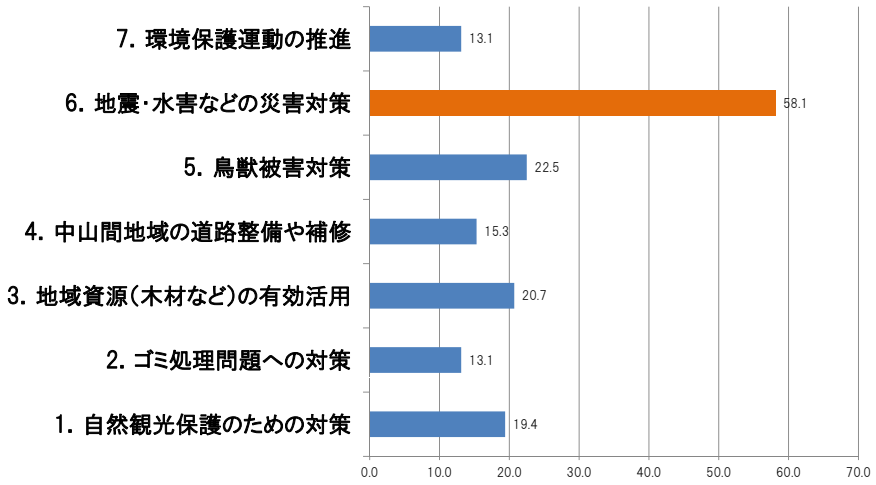
其他学生の活動

絵本の読み聞かせ（三原小学校）	肥前の子ども達を対象に食育等を行う（高知市）	北川村観光協会と協力し、イベントの企画運営やボランティアを行う（北川村）	ヒアリング調査および中学生、地域住民との交流（中土佐町、津野町）	バザーボランティア（十津川小学校）	援農隊（ゆずりなど各地域の農家の作業への協力、小学生の食下駄の修理、あいさつ活動）	市町村社会福祉協議会や市町村行政の協力も得ながら、中山間地域が多い高知県で多様な地域活動が行われている
学校を休みがちな児童生徒、宿習を持っている児童生徒の話し相手、スポーツやゲーム、教科指導等体験活動のサポート（高知県教育センター）	1型糖尿病の子ども達を対象に食育等を行う（高知県内）	「ハートニー高知」での入院患者および家族のサポート活動を行う（高知医療センター）	特別養護老人ホーム・病院への訪問取組、敬老会、みさと地区の祭り（みさとフェア）での演奏（高知市他）	親子料理教室やレストランでのメニュー開発等を行う（高知県内）	留學生との国際交流および滞在のサポートを行う（高知市）	児童養護施設の子ども達に対する宿題中心の学習支援活動を行う（高知市他）



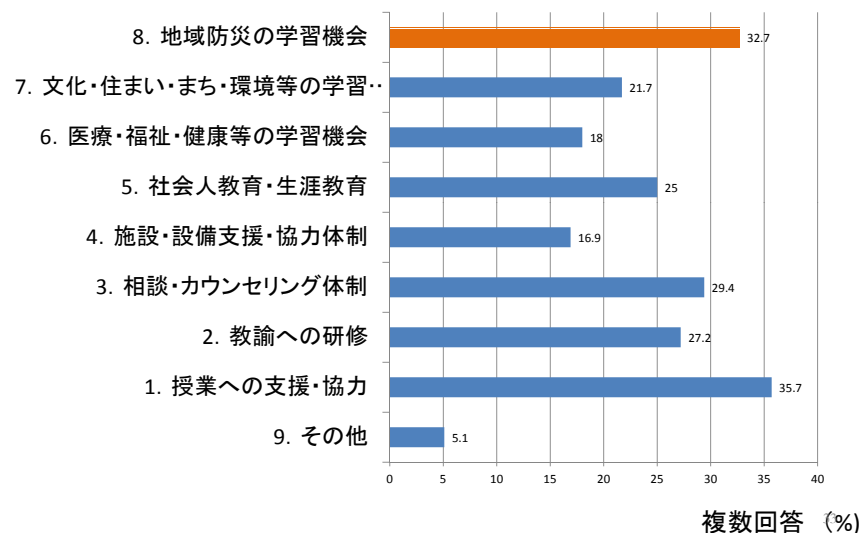
- 目的:
- I. 県内各地域の地域課題を明らかにする
  - II. 学内の教員の地域連携のリソースを明らかにする。

## 大学と連携したい環境課題





## 大学と連携したい教育課題



## 学生のことを理解しよう

1. 暇な学生⇔多忙な学生  
家庭環境や学部により様々
2. 夏休み  
長期活動できる⇔長期不在(帰省)
3. 就職活動  
3年の後期から就職活動(厳しい就職戦線)
4. 年間スケジュールの把握  
テスト期間、長期休暇、実習等活動できる期間等を把握しておく

34

## 学生の活動に当たっての強み

1. 芋づるネットを持っている  
友人が友人を呼び輪が広がる
2. 多忙であるが調整で時間は作れる  
アルバイト先のシフトの確定時期を把握すれば調整は可能。
3. 若さ・専門家の卵  
学生ゆえの視点や専門分野の学びを持つ
4. 斬新なアイデアを持っている。

35

## 学生の活動に当たっての弱み

1. 現地までの移動手段がない  
原付バイクや自転車の行動範囲内
2. 多忙である  
アルバイトで多忙。実習に追われる学部も。
3. 期間が限られる  
活動期間は長くて3年(4年は就活)。後輩にリレーできないと活動終息。
4. 社会的常識やマナーの不足
5. リスクマネジメントの意識が低い

36

## 学生との連携べからず集

1. お客さん→主体的関わり(意思決定に参加) 課題を共有できない。単発の関係に終わる
2. 無償の労働力利用→大きな学びの場 アルバイトを雇うお金もないので学生さんの力を借りたい(ある相談例)
3. 学生同士で固まる→地域との交流 人間は仲間で群れる習性がある。 交流しやすい仕掛けも必要。
4. とりあえず連携→目的を明確にした連携 多方面から声がかかり連携疲れ？

37

## 学生を射んとせばまず教員を射よ

1. 掲示版での広報だけでは集まらない
2. 背中を押す教員の一声の効果大きい
3. 教員は大きく分けて2種類
  - ①学生の本分は勉強(原理主義)
  - ②現場での学び重視主義
4. 一度活動が途切れてもリセットされない。
5. フットワークの軽い現場重視の教員とつながるべし。

38

## まとめ:環境整備

1. 被災地支援、地域活動。いずれも現地までの足(交通)と宿泊が最大のネック。
2. 単位化または特別欠席の配慮など、活動に参加しやすい雰囲気づくり。
3. コーディネート:連携相手を選ぶ際は学生だけでは厳しいこともある。
4. 連携目的の明確化:連携のための連携は×
5. 被災地支援活動の環境づくりは、大学や職場の責務(裁判員・ドナー)という社会的認識を持つ。

現場(被災地)体験に勝る学びなし。

39

## 地域に被災地支援経験者を増やすために

1. 座学の防災知識だけでは限界がある。 災害がイメージできない=地域防災の停滞
2. 被災地支援を行う社協職員に離職が多い理由は？
  - ・志に目覚める？Or職場に居づらくなる？
3. 現場(被災地)経験者を増やしていくために
  - ・職場での理解:目先の業務ではなく広い視点で
  - ・制度の後押し:理解はなくても制度で支援が可能に
  - ・コーディネーターには旅費も含めた支援体制を堂々と支援に赴きたい・・・(こんなつぶやきをなくしたい)

被災地支援を行いやすい環境整備が急務

40